

## 平成12年度着手の全学テーマ別評価「教育サービス面における社会貢献」の評価結果（改善点等）に対する対応結果報告書

### 1 目的及び目標を達成するための取組

事業名等	改善点等	部局等名	対応結果
(1) 全学授業公開	全学授業公開は、参加者が生の講義を身近に体験できる優れた取組であり、体験入学は、参加者等の理解を図るという目標に沿った優れた取組であるが、 <u>開催日時など参加者への利便性を図るという点で改善の余地がある。</u>	入学試験委員会	全学授業公開は、平成11年度から受験生等の進路決定に資するため、本学学生向けに行われている授業を6月の1週間（月曜日から金曜日まで）にわたり、全学的に連続して公開したもので、毎回、受講者向けのアンケート調査を行って改善に努めてきた。その中で、指摘のとおり「高校生が参加しやすい日程・時間帯等を考慮願いたい」旨の要望が多く、平成13年度までの3回の実施を踏まえて、同年度に各高等学校等に「授業公開の実施に関するアンケート調査」を行った。 その結果、土曜日等の高等学校の休業日に授業公開を希望する意見が非常に多かったが、授業公開を含めて学部説明会（オープンキャンパス）及び大学説明会等の受験生に対する広報活動について、その理念、目的、方法、効果について、それぞれ明確にすることが必要であるとして、各学部ごとに特色を生かした形でこれらの広報活動に工夫をこらして実施願うこととした。
(2) 体験入学		繊維学部	長野県下の高等学校並びに本学部への入学実績のある県外高等学校に対して、事前に体験入学（学部説明会、キャンパス見学会及び大学体験実習）の案内を行い、併せて開催日時について高等学科サイドの希望を照会した上で、高等学校の生徒が一番参加しやすい夏季休業期間中に実施している（実施済）。

### 2 目的及び目標の達成状況

事業名等	改善点等	部局等名	対応結果
(1) 出前講座	受講者数にばらつきがある点、 <u>受講者に対するアンケート調査は行われておらず、受講者の満足度の把握ができていないなどの点で改善の余地がある。</u>	生涯学習推進委員会	平成14年度からは、受講者に対するアンケート調査を実施し、受講者の満足度を把握することとした。 受講者数にばらつきがある点については、主催者に対して受講者が一定数以上集まることを出前実施の条件とすることが考えられる。現状において、非効率となることは避けられないが、少数の地域住民のニーズに応えることも大切であるとの観点から、当面は、これを条件としないで実施することとする。
(2) 附属図書館	一般市民の利用が年々増加してきている点は優れているが、 <u>一般市民の利用に関するアンケート調査の実施の充実などの点で改善の余地がある。</u>	学術情報・附属図書館委員会	学外者への図書館資料の館外貸出を開始したのに合わせて、平成14年3月～4月に来館者を対象にアンケート調査を実施した。大学図書館としての資料充実など基本的要望について把握できた。今後、調査方法及びアンケート結果のまとめ方等に工夫と検討を加えるとともに、利用者の要望への対応結果について図書館報やホームページに掲載するなど、改善に努力することとしている。
(3) 公開講座	教育学部の公開講座の開催数に対して、他学部の開催数は少ないが、充足率の高いものもあり、ニーズの高さからみると、 <u>開催数については改善の余地がある。</u>	生涯学習推進委員会	公開講座を実施する予算の関連もあるが、実施回数2回以下の学部での回数増について、次年度に向け取り組む。 具体的には、各学部の生涯教育推進委員会委員が中心となって、当該学部における実施可能性について調査し、本委員会において平成14年度中の実施予定回数、さらには、平成15年度の実施計画について検討するとともに、複数学部が連携した実施を視野に入れる。

事業名等	改善点等	部局等名	対応結果
(3) 公開講座	教育学部の公開講座の開催数に対して、他学部で開催数は少ないが、充足率の高いものもあり、ニーズの高さからみると、開催数については改善の余地がある。	人文学部	
		教育学部	開催数については妥当である。地域社会の需要に応じて内容の一層の充実を図る。
		経済学部	学部の教官が行う公開講座ではなく、学部の教官が企画を立てて外部の人に来て講演等を一般向けにしてもらうことを重点的に行ってきた。引き続きこうした企画を充実することで公開講座と同等もしくはそれ以上の効果を期待したい。
		理学部	平成11, 12年度は開催数が少ないが、それを改善すべく審議した。これにもとづき学部としての中期的な公開講座開催計画を、年2, 3件の開催をめどに立案した。これにより開催状況は改善する。また、開催時にはアンケートを取り社会的ニーズを汲み上げ、それに対応した改善策をとる予定である。 また、理学部は基礎科学分野であるため、有料の教育になじみ難い分野を抱えている。したがって、有料の公開講座だけではなく、各種の体験学習など、多様な社会貢献策を検討し、全体として社会ニーズに対応できるよう検討している。 なお、平成13, 14年度については、すでに公開講座の実施回数を増しており、状況は改善している。
		医学部	公開講座は実施していないが、医学研究科専攻共通科目を「市民公開授業」として開放し、一定の成果を上げていると判断する。
		工学部	工学部が策定した「中期目標・中期計画」の中の社会貢献に関する目標として「地域社会の需要等に応じ、公開講座の開催、高度職業人向けセミナーなど、教育面での社会貢献を推進する」を掲げており、中期目標期間中（平成16年度より）、年平均2回の公開講座を開催すべく検討する予定である。
		農学部	信大夏の林業教室（年間延べ6回、13.5時間、130名）、信州の風土を活用したガーデニング（年間延べ7回、14時間、280名）、地球緑化の試み（年間延べ3回、15時間、105名）、土と緑の体験学習（年間延べ5回、15時間、250名）、みつばち体験学習（年間延べ3回、9時間、40名）、木曾馬による障害者へのアニマルセラピー（13～14年度延べ4回、16時間、120名）などを行い、公開講座の充実に努めている。
		繊維学部	本学部では、従来から一般市民を主対象としつつも、企業等の専門職の者の受講も視野に入れ、毎年テーマを一つに絞り公開講座を開催している。このことは、身近なものをテーマとしつつ、公開講座のレベルを維持する上で役立っている。今後もこのことを基本にして、社会のニーズに対応した公開講座を開催していく方針である。したがって、公開講座の増設は、今後の社会のニーズを確認の上、慎重に行っていく。

### 3 目的及び目標の達成状況

事業名等	改善点等	部局等名	対応結果
体験入学，高度職業人の能力向上等への貢献，各部局の地域密着型開放事業	計画的に活動状況や問題点等の把握を行う組織体制が整備されていない。また，十分に機能していない点で改善の余地がある。	人文学部	<p>キャンパス見学会は従来は広報委員会の担当であったが（8月初旬），今年度から各学部の入試委員会が中心となって新たに「信州大学ガイダンス」を全学規模で実施し（7月下旬），説明会を開催し，学部ごとにブースを設けて面談を行なった。県の内外より多数の参加が得られ，好評であった。</p> <p>また，内陸文化交流室の組織体制については，現状維持。活動状況や問題点の把握は，随時幹事が2名が行なっている。公開シンポは，2001年度は松本広域連合の共同研究の一環として実施され，参加者が大幅に増加するなど改善された。</p>
		教育学部	<p>(1) 現職教員の受入れについて，機能は十分に果たしている。問題点の把握等は大学院問題検討委員会で行っている。</p> <p>(2) 出前講座等地域密着型開放事業については，機能は十分果たしていると考えている。実施した事業の結果については，広報・情報委員会でモニタリング等を行い問題点の把握に努めている。</p>
		経済学部	<p>学部に設置されている研究企画委員会，入試委員会で問題点やニーズの把握に努める。</p>
		理学部	<p>理学部では社会貢献に対し総合的に取り組むような組織，すなわち社会貢献委員会を新たに発足させ，これが主体的に対応することとした。具体的な対応策としては，これまでの実施状況について評価，点検し，それらを基に新たな貢献策を検討し，実施する予定である。</p> <p>なお，理学部では対応組織ができていなかったため，実際には模擬授業(体験学習)，Junior Science,自然のなぞ，大学見学会などいろいろと開催し，社会貢献をしてきたが，それらの記述はされてはいなかった。これらの点も含め，社会貢献委員会が全体を把握し，問題点の改善に努める予定である。</p>
		医学部	
		工学部	<p>受験生の理解を図るための事業，地域住民に対する開放事業等として，工学部キャンパス見学会，体験化学講座，電気電子工学フォーラム等を実施し，参加者は年々増加している。しかし，事業の問題点，参加者の感想等に関する把握は不十分であり，今後，参加者に対するきめ細かいアンケートを実施して，問題点等の把握を行い，参加者からのフィードバックを考慮した組織体制を整備すべく検討する予定である。</p>
		農学部	<p>2日間で延べ2,600人の参加があった平成14年度「青少年のための科学の祭典」伊那大会，平成14年度に附属施設の一元化で発足したAFC（附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター）の第1回のAFC祭への参加者が，1,220名あるなど，未曾有の実績を挙げた。</p>
		繊維学部	<p>体験入学（学部説明会，キャンパス見学会及び大学体験実習）については，本学部の各学科から選出された教官で構成する入学試験施行委員会において企画・実施し，実施後は参加者のアンケートをもとに問題点等を把握し，改善に努めている（実施済）。</p> <p>また，地域密着型開放事業「ときめきサイエンス」については，本学部の各学科から選出された教官で構成する広報委員会において企画・実施し，実施後は参加者のアンケートをもとに問題点等を把握し，改善に努めている（実施済）。</p>

事業名等	改善点等	部局等名	対応結果
総合大学としての視点，キャンパス分散型大学としての視点から教育サービス活動をとらえ，具体的な目的・目標を設定し，その目的・目標を実現するための多彩な取組を実施しているが，一方で，全体として利用者からのフィードバックを考慮していないなど，不十分な点もあり改善の余地がある。	入学試験委員会		平成14年度においては，人文学部，教育学部，繊維学部において授業公開を実施し，また，市民開放授業の試聴期間に高校生等の参加を計画するとともに，初めて高等学校等の進路指導教諭を対象とした「信州大学ガイダンス」を土曜日に実施するなど，改善に努力している。 今後，アドミッションセンターの設置に伴って，高等学校等との連携を密にするなど，高校生等への広報活動の充実を図るとともに，利用者等からのフィードバックに柔軟に対応すべく努力したい。
	生涯学習推進委員会		本学は，地域に根ざした総合大学として，社会人のキャリアアップを軸にして，地域の文化的，教育的，研究的拠点になることを目指し活動している。 今後における改善の具体的な施策として，大学教育の水準を維持し，地域社会のニーズを把握するとともに，経験を蓄積し，かつ，その執行の部署として，大学開放を専門業務とする組織の設置を検討する。この組織は，地域社会へ提供する講座の大学教育レベルを維持するための方策，システムティックに編成された教育の提供など大学の全組織的施策としての実現を目的とするとともに，地域と連携し，社会のニーズを把握することも視野に入れるものである。
	学術情報・附属図書館委員会		これまでは，来館利用者の投書やホームページ投書などによる要望に対応することでサービスの改善，向上を図ってきた。今後，利用者との懇談会の開催，利用経験者や公開授業受講者への悉皆調査等による潜在的要望の掘り起こしを行い，要望事項の集積と分析，対応の揭示など，利用者と図書館間の相互コミュニケーションによるサービス改善に努めることとしている。
	人文学部		内陸文化交流室では，2001年度・松本広域連合との共同研究の成果を，観光工コソーリズムをテーマに公開シンポを開催し，好評を得た。また松本商工会議所・長野県経営者協会中信支部との共催で，まつもと産学連携研修会の開催を予定しており，さらに費用対効果を重視した企画へと発展しつつあり，大いに改善された。
	教育学部		
	経済学部		事業や行事を行う際にほとんどの場合行っているアンケートの結果を学部内の関係委員会で詳細に検討することを習慣付けたい。
	理学部		自然科学の基礎分野としての理学部の位置づけに配慮しつつ，この分野での社会貢献のあり方について検討した。利用者からの要望に関するフィードバックを大学広報委員会が受けた後，遅滞なく，また理学部全体が一体となって対応できるように社会貢献委員会を発足させた。本委員会は，各種の社会貢献の立案や，そのマネジメントだけでなく，分散型の大学に配慮して上部組織と緊密に連携をとりながら利用者の要望にも十分対応していく予定である。
	医学部		

事業名等	改善点等	部局等名	対応結果
	<p>総合大学としての視点，キャンパス分散型大学としての視点から教育サービス活動をとらえ，具体的な目的・目標を設定し，その目的・目標を実現するための多彩な取組を実施しているが，一方で，全体として利用者からのフィードバックを考慮していないなど，不十分な点もあり改善の余地がある。</p>	工学部	
		農学部	<p>平成13年度に外部評価（研究・管理運営面）を実施した。そこで指摘された事項を改善すべく，中長期的な事項は「農学部目標・計画委員会」で，短期的な事項は「学部改革ワーキンググループ」（いずれの委員会も平成14年度設置）で検討し，実施できるところから着手している。</p>
		繊維学部	<p>本学部で実施している，体験入学（学部説明会，キャンパス見学会及び大学体験実習），ときめきサイエンス及び公開講座ともに，実施後参加者からアンケートを提出願っている。この結果を，今後の事業の実施に反映させている（実施済）。</p>